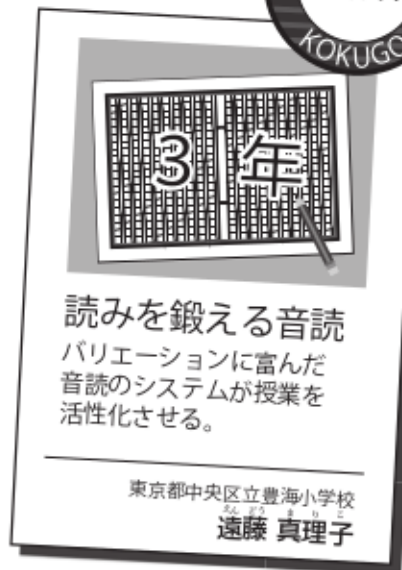


国語
KOKUGO



国語の授業であれば音読は必須である。短時間であっても、毎時間しっかりと声を出すことでメリハリが付き、授業にリズムとテンポが生まれてくる。

音読の種類

〈一斉読み〉

全員で声をそろえて読むことを一斉読みという。しかし、長文を一斉読みさせるのはかなり難しい。その前段階として次のような読み方がある。

① 追い読み……教師の読んだ部分を復唱する。学年やクラス

の実態に応じて、読みやすい長さにする。

② 続き読み……詩などの、始めの部分を教師が読み、続きを讀ませる。

③ 交代読み……詩などで、奇数行を教師、偶数行を見童、のように、交代で読ませる。男女や、教室を二分割して交代で読ませてもよい。

④ だけのご読み……詩などで、読みたい行を三つ選ばせる。人数に偏りが出るが気にしない。ただし、一人でもしっかり読むよう、あらかじめ声掛けをしておく。誰も読み手

のいない行は、教師が読む。題名を全員で読んだ後、読み進めるが、自分の読む行になったらすつと立って読み、読み終わったら座る。この様子が、たけのこがすくすく伸びる様子に似ているので、「たけのこ読み」という。

⑤ 気持ち読み……詩などで、教師の言う様子で読ませる。例えば「大きな声で」「ゆっくり」「笑いながら」「泣きなごら」というように。

〈二人読み〉

一人で読むこと。ただし、ただ読ませても長続きしない。努力の跡が視覚的に見えるような工夫がいる。

① 色塗り……題名の横に○を十個かかせ、一回読むことに赤鉛筆で色を塗らせる。

② 場所替え……一回読み終わったらその場で立って読む。二回目は窓際で読む。三回目は教室の後ろで読む。というよ

うに、位置を変えさせることで、さぼりがちな児童もやるざるを得ない。

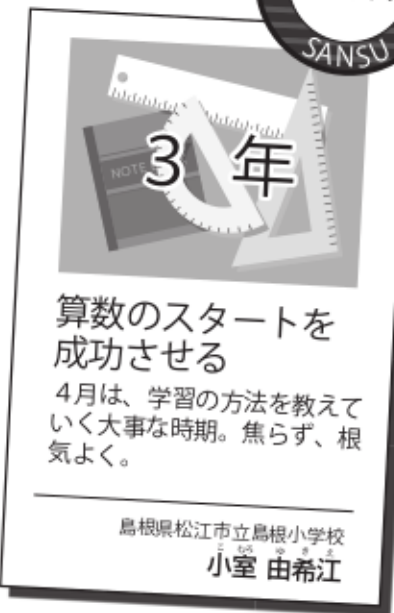
③ 向き換え……②と同様に、一回目は正面、二回目は右向き、三回目は後ろというように向きを変えて読む。

〈丸読み〉

句点「。」で交代して読むこと。音読テストや参観日に保護者の前で一人ずつ読ませたりする。しかし、いきなりやってもうまく読めない。一人一人が上手に読めるようになって初めてスムーズにできる。

一人読みを何回か練習した後、隣同士で交代読みをする。二回読み終わったら○を一つ塗らせている。次は四人グループで丸読みをさせる。これがスムーズにできるようになったら、クラス全体で行う。あらかじめ、どの順番で読むか決めておくことが大切である。

算数
SANSU



1 見通して布石を打つ

二年算数の実態調査を行い、ノートの使い方、教科書の折り目づけを指導したら、教科書を使った授業がスタートする。

三年生をスタートさせるにあたって、全単元を見通して、最低限のような力を付けておく必要があるのかを考え、その手立てを用意しておきたい。

三年生では、かけ算九九がすらすらと言えることである。かけ算の筆算、余りのあるわり算といった、九九がベースとなる単元がある。

二年生で九九を練習し、順・逆ともすらすらと言えるようになつていだろう。しかし、ランダムだと、言えない子供、間違えてしまう子供は少なくない。

2 授業の始まりの九九の指導

三年生最初の単元は、かけ算である。「三年の算数、できる!」と感じさせたい。算数の始めの五分程度で九九の練習をする。百玉そろばんを使って、短時間で、楽しい雰囲気の中で九九の順、逆の練習をしていく。毎日同じでは飽きるので、時には言わせ方をアレンジする。

3 時間の指導

次の単元、「時刻と時間」の学習も苦手な子供は少なくない。百玉そろばんを使った「五とび」の練習、時刻を言わせる練習をしていきたい。

また、算数以外でも、時間を言わせる簡単な問題を出す。例えば、次のような発問だ。

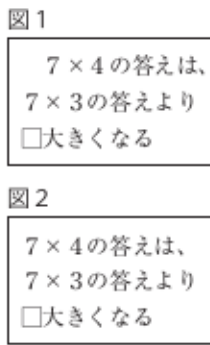
発問1 大休憩(中休み)まであと何分?

発問2 学校に来てから、何時間たった?

どの子供にも考えさせるよう指名して答えさせたり、お隣と相談させたりする。

4 分かりやすいノートに

どの学年でも、最初の算数の授業で指導すべき最も重要なことは、「ノートの使い方」である。教科書の記述は、図1のように一字下げによりずれている。分かりやすいノートにするには、図2のようにそろえて書くことを教えていかねばならない。



四、五月は、例示、細やかな指示、確認によって、ノートの使い方をしっかりと指導する必要がある。この時期は時間が掛かるが、向山型算数の授業なら、挽回できる。